

国語科学習指導案

令和3年5月21日(金) 第4学年1組(5年1組教室) 指導者 田島 友香

【単元】対比のよさを見つけよう(『思いやりのデザイン』『アップとルーズで伝える』光村図書4年上)

考察	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
育成を目指す資質能力	- 指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割についての理解 ((1)カ) - 考えとそれを支える理由や事例など、情報と情報との関係についての理解 ((2)ア)	段落相互の關係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との關係などについて、叙述を基に捉える能力 (C(1)ア)	言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度
児童の実態	- 説明的な文章の問いと答えとの関係や、指示する語句や接続する語句の役割について理解をしている。 - 対比的な事例が、書き手の考えを支えていることについての理解は不十分である。	- 問いと答えが、順序立てられた理由によって支えられている説明的な文章を、段落相互の關係に着目しながら読むことができる。 - 書き手の考えが対比的な内容や書き方によって支えられている説明的な文章を、段落相互の關係に着目しながら読むことの経験は不十分である。	- 身近な話題や自分の興味のある事例を取り上げている説明的な文章を、進んで読むことができる。 - 説明的な文章を読み、分かりやすく伝えるための説明のよさを見いだす経験は不十分である。
価値	・『思いやりのデザイン』は、見る人の目的に合わせて作られた二つの案内図を事例として取り上げている説明的な文章である。⑤段落の書き手の考えは、③段落と④段落の対比的な事例で支えられている。この説明的な文章は、文章量が少なく、対比的な内容や書き方を捉えやすい。『アップとルーズで伝える』は、アップとルーズという二つの撮影方法を事例として取り上げている説明的な文章である。『思いやりのデザイン』よりも文章量が多く、書き手の考えを支える対比的な事例が多い。この二つの文章を続けて扱いながら、書き手の考えと事例との關係を聴き合う活動は、考えと事例との結び付きの確かさや、対比的な事例同士の關係を明らかにすることになる。そのため、情報と情報との關係についての理解を深め、段落相互の關係に着目しながら、考えとそれを支える事例との關係について、叙述を基に捉える能力を高めることができる。また、対比によって分かりやすく伝える説明的な文章に触れ、幅広い読書経験を積むことができる。 ・『思いやりのデザイン』と『アップとルーズで伝える』は、書き手の考えが含まれる段落、対比的な事例を挙げた段落など、段落の役割が捉えやすいため、段落相互の關係に着目できる。そのため、段落の役割や考えとそれを支える事例との關係を理解できる。	・『アップとルーズで伝える』は、対比的な事例で書かれた①段落と②段落が③段落の考えや問いを支え、④段落と⑤段落が⑥段落の考えを支えている。同じ段落相互の關係が繰り返されるため、それぞれの段落の役割に気付くことができる。そのため、段落相互の關係に着目しながら、叙述を基に、考えと事例との關係を捉える能力を高めることができる。	・『思いやりのデザイン』は街の案内図のデザインを、『アップとルーズで伝える』は、サッカーの試合における撮影方法を、それぞれ事例として取り上げている。この親しみやすい事例は書き手の考えだけでなく、説明のよさを支えている。そのため、言葉がもつよさに気付くことができる。
見方・考え方	段落の役割や段落相互の關係に着目しながら、段落と段落、叙述と叙述との対比關係を捉えたり問い直したりして、説明のよさを見付けること。		
今後の学習	4年「中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう(『世界にほこる和紙』光村図書4年下)」において、考えとそれを支える事例との關係を明確にしながらかんだことを生かし、説明的な文章の書き方を工夫していく学習へと発展していく。		

指導と評価の計画

目標	『思いやりのデザイン』と『アップとルーズで伝える』について段落相互の関係に着目しながら、書き手の考えとそれを支える事例との関係を捉えて読むことができる。			
言語活動	対比的な事例を取り上げた文章を読み、書き手の考えと事例との関係を聴き合う活動			
評価 規準	(①知・技) 段落の役割について理解している。(①) カ) 考えとそれを支える事例との関係について理解している。(②) ア) (②思・判・表) 「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。(C (1) ア) (③主体的態度) 進んで考えとそれを支える事例との関係を捉えて読み、学習課題に沿って対比を使った説明を生かせる場面について考えようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目＜評価方法（観点）＞※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○『思いやりのデザイン』を読み、二つの案内図が対比的な事例であることを確かめる。	○③④段落の事例が対比的な事例であることに気付けるよう、事例を読み取る視点として「長所」と「短所」を提示する。	◇段落の役割に着目し、③④段落の対比の関係について指摘しながら、長所と短所を記述している。 ＜ロイロノート①＞
	1	○『思いやりのデザイン』と『アップとルーズで伝える』を比べて読み、学習課題をつかむ。 学習課題 対比のよさを見付け、対比を使って自分の考えを説明できる場面を考えよう。	○対比のよさを見付けることへの課題意識を高められるよう、『アップとルーズで伝える』を読む際に、『思いやりのデザイン』で捉えた対比的な事例と考えの関係図をまとめた模造紙を提示する。	◇対比的な説明を学ぶことに対する必要感を記述している。 ＜ノート③＞
ふかめる	1	○『アップとルーズで伝える』の段落構成を考える。	○書き手の考えに着目しながら文章構成を捉えられるよう、三段構成の意味段落ごとの役割（話題提示、説明、まとめ）を提示する。	◇各段落を三段構成図に書き分けながら、考えが含まれる段落を指摘し、書き手の考えを記述している。 ＜学習プリント①＞
	1	○①②③段落の段落相互の関係について聴き合う。	○①②段落の対比が、③段落の書き手の考えや問いを支えていることに気付けるよう、段落相互の関係を記入できる本文シートを用意する。	◇①②段落で事例を対比的に説明し、それらを受けて③段落に考えや問いが示されていることを記述している。＜ロイロノート②＞
	2	○④⑤⑥段落の段落相互の関係について聴き合う。 (本時1/2)	○④⑤段落の対比が、⑥段落に関係していることに気付けるよう、上下に段落カードを配置した学習プリントをタブレットに用意する。	◇④⑤段落の対比的な事例と、⑥段落の考えとの関係を指摘している。 ＜ロイロノート②＞
	1	○⑦⑧段落の役割について考え、対比のよさについて聴き合う。	○⑦⑧段落の役割に気付き、考えと事例との関係を捉えられるよう、段落カードを用いて、①～⑧段落の関係を図示する機会を設定する。	◇⑦段落が⑥段落の類比であること、④⑤⑥段落が⑧段落の考えを支えていることを記述している。 ＜ロイロノート①＞
	1	○対比を使った説明を生かせる場面を見付ける。	○書き手の考えと事例との関係を捉えながら場面を見付けられるよう、「自分の考え」と「対比される事例」の視点が入ったカードをタブレットに用意する。	◇事例を対比的に用いて、考えを説明する場면을指摘している。 ＜ロイロノート③＞
ふかりえる	1	○対比を使った説明を生かせる場面を決め、単元の学習の振り返りをする。	○考えを支えるために対比的な事例を使うよさ確かめられるよう、これまでの単元の学習で蓄積した振り返りの記述を読み返す機会を設定する。	◇学習課題の解決状況に関わって、書き手の考えを支えるために事例を対比的に書くことのよさを記述している。 ＜ノート③＞
【備考】 ○本単元の学習後に、対比的な説明の工夫を活用した、二つのものを比べる文章を書く活動を5時間設定する。(B (1))				

本時の学習（５／９時間目）

ね ら い ④⑤段落の大事な対比と⑥段落の考えとの関係について聴き合うことを通して、④⑤段落と⑥段落との関係を捉えて読むことができる。

評価項目 ④⑤段落の対比的な事例を指摘し、それらと⑥段落の叙述とを結び付ける発言や記述をしている。

<発言・ロイロノート②>

学習活動と児童の意識	指導上の留意点
１ 本時のめあてをつかむ。 ・①②段落は「アップ」と「ルーズ」の説明が対比を使って書かれていて、それが書き手の考えや問いの文章につながっていたな。④⑤段落の大事な対比はどこかな。その対比が考えとつながるのかははっきりさせたいな。（課題意識） めあて：④⑤⑥段落の「大事な対比」を見付け、考えとの関係を読み取ろう	○④⑤⑥段落において、書き手の考えと事例との関係を捉えることに対する課題意識をもてるよう、①②③段落における対比と書き手の考えとの関係と、④⑤⑥段落について明らかにしたいことを問いかける。
２ ④⑤⑥段落の大事な対比とその理由を聴き合う。 ・④段落の「アップでとったゴール直後のシーンを見てみましょう。」と、⑤段落の「試合終了直後のシーンを見てみましょう。」は、どちらも「見てみましょう。」で終わっているし、様子を比べているから大事な対比だと思うな。 ・ペアの友達は、④段落にあるアップのよさと⑤段落にあるルーズのよさが大事な対比だと考えているのか。何でそう思ったのか聞いてみよう。 ・よさのところを音読してみると、よさは長所ってことだから、長所を説明したほうがいいっていうペアの友達の考えがなんだか分かってきたかもしれない。そうすると、④⑤段落の最初の文よりこっちの方が大事な気がしてきたな。 ・反対側のペアは、最初の文よりも、④段落の「しかし、このとき、・・・」と、⑤段落の「でも、各選手の・・・」という短所の文も大事な対比だと考えているな。 ・⑥段落の「伝えられることと伝えられないことがある」という文章が④⑤段落の長所と短所とつながっているから大事な対比になりそうだな。そうすると、④⑤段落の最初の一文は大事な対比ではないな。（課題を解決した意識）	○④⑤段落の大事な対比に気付けるよう、④⑤段落カードを操作して上下に配置した学習プリントをアプリケーション「ロイロノート」上に用意し、大事な対比に線を引いた上で、アプリケーション内の提出箱に提出するよう促す。 ○④⑤段落の複数の対比の関係に着目できるよう、アプリケーションの比較機能を用いて、互いの考えを見比べたり、本文シートに大事な対比を記入したりしながら聴き合っているペアを称賛する。 ○新たに見付けた大事な対比や友達の考える大事な対比を自分の考えに生かせるよう、大事な対比だと思う部分やその部分を抜いて音読し、話の内容を確かめたりするよう促す。 ○大事な対比についての考えを更新していく中で生じた疑問を解決できるよう、ペアで解決できないことは向かいのペアと聴き合うよう助言する。 ○④⑤段落の大事な対比が⑥段落の書き手の考えと関係していることを捉えられるよう、大事な対比と判断する際の根拠となる叙述について問いかける。
３ 本時の学習の振り返りをする。 ・④⑤段落は段落同士が対比しているだけでなく、それぞれの長所と長所、短所と短所が大事な対比だったな。次の時間は、大事な対比と⑥段落との関係をはっきりさせたいな。	○大事な対比を見付けたことへの達成感や、⑥段落との関係をより捉えて読むことへの課題を実感し、次時の見通しをもてるよう、本時の学習で見付けた大事な対比について「分かったこと」「分からなかったこと」を視点に、振り返りを記述するよう促す。